

審査の結果の要旨

氏名 シム チュン キャット

近代社会においては、好むと好まざるとにかかわらず、社会経済的地位の不平等が存在する。そのような近代社会にあって、教育は社会的選抜の機能を果たしている。それでは、それぞれの社会は、選抜の過程で生み出される「敗者」をどのように位置づけ、対処しているのだろうか。ここに、メリトクラシー（業績主義）とトラッキング（進路に応じた水路づけ）に関わる、教育社会学の重要な主題が立ち現れる。本論文は、シンガポールにおける技術教育校（Institute of Technical Education; ITE）を対象に、教育選抜における「敗者」の処遇とその帰結について、日本との比較も射程に入れた比較社会的検討を加えた実証研究である。

本論文は6章よりなる。1章では、マンパワーポリシー論、トラッキング研究といった先行研究のレビューをもとに、教育社会学研究は、「敗者」への処遇問題をどのように扱うかという、本研究の分析課題が提出される。2章では、シンガポールの教育制度の特徴を描写しながら、小学校段階から始まるトラッキングの様相とその機能について概括する。

これらの準備段階を経て、3章では、日本との比較分析を交えながら、シンガポールのITE生徒たちが、出身階層の影響を超えて、学習意欲や教育アスピレーションといった面で再活性化される実態が、質問紙調査データの分析を通じて明らかにされる。併せて、日本の「下位校」の高校生は、「レフトアウト」された状態にあることが確認される。

続く第4章、5章は、3章で明らかにされた生徒の再活性化を生み出すメカニズムの分析にあてられる。4章では、生徒対象のインタビュー調査を用いて、いったん冷却された生徒たちの意欲がITEの教育を経験する過程で改善していく様態が記述される。それを受けて5章では、ITEの教員に焦点をあて、教員や行政担当者へのインタビューをもとに、レリバンスの高い教育を提供する教員の採用、育成がどのように行われ、教員がいかなる意識を持って教育に臨んでいるか、それを可能にするITEという学校制度がいかなるものかが解明される。

これらの分析を受けて、結論にあたる6章では、本論文の知見をまとめた上で、シンガポールのITEにおいては、敗者たちに「セカンドルート」の提供を可能にする、「究極の機関間リンケージモデル」が成立していることを理論的・仮説的に示す。それは、国家によるマンパワー政策とトラッキングとの良循環によって可能となるメカニズムの提示である。

このように本論文は、教育が果たす社会的選抜過程の下で、「敗者」への処遇のあり方によっては、学習への取り組みの再活性化が可能であることを示すとともに、それがいかなるメカニズムによって可能（シンガポール）/不可能（日本）となるかを、実証的に解明することに成功している。その点で、今後の教育研究に重要な貢献をなすものと考えられる。以上により、博士（教育学）の学位論文として十分な水準に達しているものと認められる。